

『学習社会研究』第6号企画主旨・特集テーマ

『学習社会研究』第6号では、「学習社会とコミュニティのエンパワーメント」をテーマとする。学習社会にとってコミュニティは、必要不可欠である。コミュニティは、地域社会や共同体にとどまらず、家庭といった私的な範囲や政府や自治体まで含まれる幅広い範囲を包含している。これまで『学習社会研究』で設定されてきた「地域主権」、「つながりの再構築」、「学習都市」、「ダイバーシティの推進」、「教育の未来像」というテーマは、コミュニティなしでは成り立ちえないものである。今号のテーマであるコミュニティのエンパワーメントは、学習社会を成立させるための重要な要素である。

2023年6月13日に政府は、異次元の少子化対策として、「こども未来戦略方針」を正式決定した。この背景にあるのは、2022年の合計特殊出生率が1.26となり過去最低となっていることが関係している。その一方で、2022年の65歳以上の人口の割合は29.1%となり、過去最多を更新している。少子高齢化をこのまま急速に進行させてしまうと、既存のコミュニティを従来のように維持していくことが困難になってくる。そのため、どのようにコミュニティをエンパワーメントしていくのが課題となっている。

コミュニティ・エンパワーメントは、もともとは個人の自立を支援するためのコミュニティの発展を支援する意味であった。自立とは、当該個人の状態にかかわらず、自分の人生を自由に創り出すことができることである。自立の本質的な要件は、他者との相互依存関係を相互の自由を拡大するものとして創り出すことであり、それがコミュニティ・エンパワーメントである。

しかし、本企画では「コミュニティ」の意味を拡大し、地域社会に限定されないものとして考えてみたい。例えば、学校現場では、個別最適な学び、不登校、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）化、防災教育、部活動の地域移行が求められている。また、社会教育では共生、ウェルビーイング(well-being)、リスクリング、リカレント教育、地域連携（および学校との連携）が強調されている。いずれのテーマについてもコミュニティのエンパワーメントが関わっていて、学習社会を成立させる重要な要素である。